

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2021年度 優秀園 審査委員特別賞
学校法人鈴蘭台学園 認定こども園 いぶき幼稚園

本園は、「科学する心を育てる」ために独自に考えられた「学びのサイクル」を重視、その中で、幼児期に最も重要な「心の育ち」に傾注した保育を試みています。

子どもたちの「コロナって何？」という素朴な疑問からスタートした取り組みは、新型コロナウイルスの特徴を知るためのアンケート結果により、一層関心のテーマとなり、自分たちも新型コロナウイルスに対峙できるということがしだいに分かっていきました。

「新型コロナウイルス」という目に見えず、よく解明されていないものをあえて保育の題材とし、コロナ禍の新たな園生活を子どもたち自らが創りだしていかうとする姿、さらに異年齢など身近な人のことも考えて進めていくプロジェクトは、独自性のある探究的な学びに繋がっています。

予防に効果的な行動や対策を子どもたち主体で考え、ソーシャルディスタンスへの問いからトイレを安全空間にするための壁作りを試行錯誤するプロセス、アルコール台の仕組みへの探究、効果的なマスクについて議論し本物のマスクを解体して自作する姿などに「科学する心」の育ちを確かに捉えることができます。

ドキュメンテーション、コロナ新聞、付箋による振り返りなど、可視化の創意工夫は、子どもたちと保育者と保護者との共有のツールとなり、「もっと知りたい」「もっと伝えたい」との意欲や自信に繋がるなど、「科学する心」の育ちを支えています。

新型コロナウイルスとの共生が、社会で様々問われている中で、予防行動の基本とその理由が子どもたちにも理解され、5歳児の協働的な学びとなって表れたことは、大変ユニークな取り組みとして高く評価されました。